

創立者の名誉学術称号御受章300を記念して

神 立 孝 一

2010年11月21日、創立者池田大作先生は、アメリカ・マサチューセッツ大学ボストン校から名誉人文学博士号を御受章なされた。これで、創立者の名誉学術称号は、300となる。心よりお祝いを申し上げたい。

創価教育の観点からは、牧口常三郎先生の著書『創価教育学体系』発刊80周年の佳節であり、本学にとっても創立40周年を迎えるにあたっての記念すべき出来事であった。これまで、名誉学術称号については、様々な視点からその意義が語られており、今更ここでそれを繰り返す必要は無かろう。しかしながら、300もの学術機関から一人の人間に対して、その称号が授与された歴史的意義というものは、もっと高く評価されるべきではなかろうか。すなわち、歴史に残る壮挙と言っても過言ではない。創立者は苦学の中で、学生生活を送られた。少なくとも一般的な高等教育を受けたとはいえない。その人物に対し、こうした名誉称号が授与されていることを、今一度問い返す必要があると思うのである。

上記マサチューセッツ大学ボストン校のモトリー学長は、授章の辞の中で次のように述べている。

「貴殿は、平和と文化、教育を推進する上で、個人のエンパワーメント（能力開花）と社会への関わりを提唱しておられます」

「貴殿は、世界平和は社会、あるいは構造的改革のみならず、自発的な個人の変革によって実現されると信じておられます」

ここでのキーワードは、「平和」であり「個人の変革」にあるといえよう。同大学のみならず、創立者への名誉学術称号授与の理由は、「個人による平和の推進」に焦点があてられている場合が多い。

一人の人間の潜在的な力をいかに発揮させ、その力をどのようにして社会の変革へと結びつけていくのか。それを可能にしたのが、創立者の指導力であり思想であると、多くの識者が指摘しているのである。それを成し遂げたのもまた、一人の人間であり、ここにこそ揺るぎない法則性が存在する。これこそが、「創価教育」であり、これまで成し遂げられてこなかった平和・文化・教育運動でもある。

創立者は、創価教育初の卒業生である創価高校1期生に対して、次のように語られている。

「諸君が受けた教育の真価は、諸君の人生に臨む姿勢で決まるということです」

創価教育は、卒業生で決まる。創価教育は、一人の人間の生き方で決まる、ということである。

そこには、人間の持つ力をどこまでも信じようとする、温かなまなざしがうかがえよう。

300の名誉学術称号が示す意味は、計り知れないものである。それは同時代を生きるわれわれにとっては、理解を超えているように思える。歴史という時間の流れが、それを徐々に解きほぐし、実際の光沢を明示させていく役割を担ってくれることを信じたい。

創価教育研究所が、その一端を担わせて頂くことが出来れば、これに過ぎたる喜びはない。それを可能にするためにも、よりよき資料の収集と研究の深化を誓い合いたいと思うのである。